

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第3号）について（送付）

本年は果樹カメムシ類の発生が多く、特に宇城及び天草地域で誘殺数の増加が見られましたので、注意していただくよう発生状況をお知らせします。

記

1. 発生状況：

1) 今年のチャバネアオカメムシの越冬虫数は平年並で、昨年より多かった（平成23年3月2日付け技術情報第15号）。

2) チャバネアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップへの誘殺は、4月第6半旬～5月第1半旬から確認され、5月第2半旬から増加した。

特に、天草市では予察灯（100W水銀灯）で5月第2半旬に1650頭（平年346頭）、宇城市では予察灯で第3半旬に505頭（平年26頭）、フェロモントラップで第5半旬に361頭（平年20頭）が誘殺されており、この時期としては例年になく多い発生となっている。なお、両地域とも、その後の誘殺数は減少している（図1～3）。

3) チャバネアオカメムシの5月第1～6半旬の累積誘殺虫数は、合志市の予察灯が平年並、宇城市の予察灯、フェロモントラップが平年比多、天草市の予察灯が平年比多であり、地域により差がみられた（表1）。なお、ツヤアオカメムシの誘殺数は、3地点とも平年並～やや少で推移している。

4) 天草及び宇城の普及・振興課、病虫害防除員への聞き取り調査では、果樹に対する被害の発生は認められていない。

2. 防除対象作物：落葉果樹、カンキツ類

3. 防除上注意すべき事項：

1) 現時点でカメムシ類の被害は認められないが、周辺の生息密度は平年より高いと考えられる。今後気温の上昇とともに活動が活発になるため、園内への飛来に注意し、早期発見、早期防除に努める。

2) 成熟・着色の早い品種では集中的に加害されるので注意する。

3) 薬剤は、使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意して使用する。

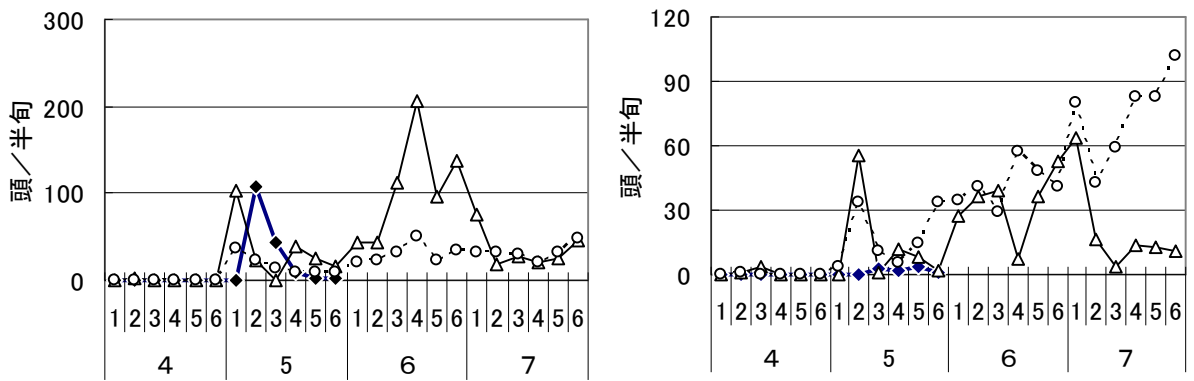


図1 合志市の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。 ◆：23年 △：22年 ○：平年値

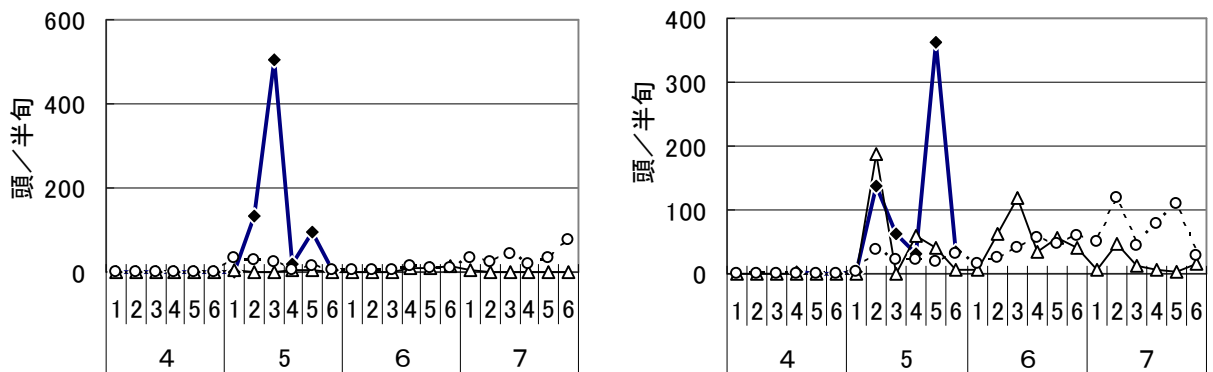


図2 宇城市の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。 ◆：23年 △：22年 ○：平年値

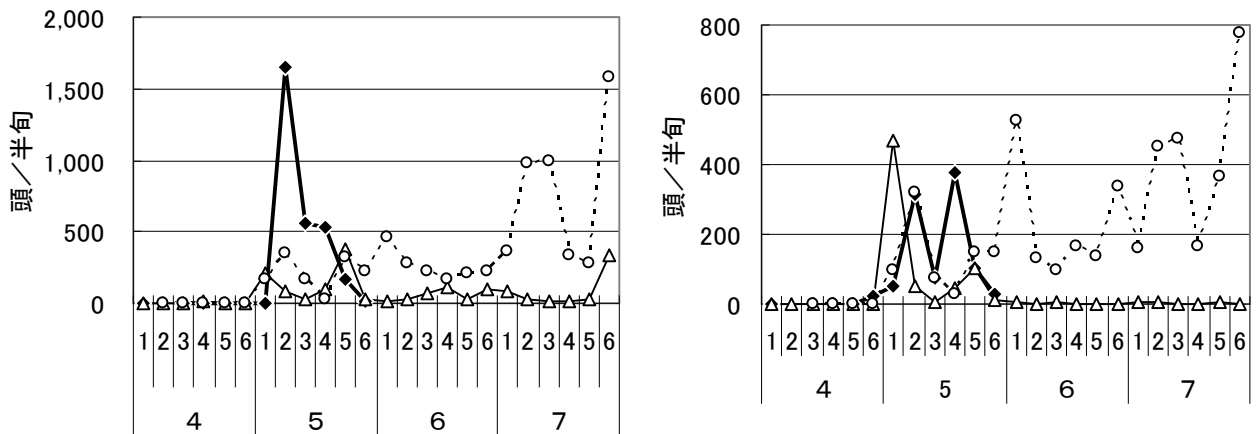


図3 天草市の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。 ◆：23年 △：22年 ○：平年値

表1 各調査地点におけるカメムシ類の5月1半旬～6半旬における誘殺数

地域名	チャバネアオカメムシ(頭)		ツヤアオカメムシ(頭)	
	予察灯	フェロモントラップ	予察灯	フェロモントラップ
合志	165(101)	10(102)	2(64)	0(3)
宇城	755(110)	632(126)	237(208)	112(236)
天草	2,931(1,243)	950(813)	630(1,229)	130(115)

( )は平年値

(参 考)

◎果樹カメムシ類の生態について

熊本県の果樹カメムシ類では、チャバネアオカメムシの発生量が最も多く、次いでツヤアオカメムシである。

チャバネアオカメムシは雑木林の落葉下で成虫越冬する。越冬した成虫は4月下旬頃から活動を開始し、サクラやクワ、発生が多い場合はモモ、ウメ等の果実を加害する。7月上旬からスギ、ヒノキ等の針葉樹に移動し産卵する。幼虫は球果上で成長し、成虫となり、8月以降果樹園に飛来する。